



ともに、生きる。江戸川区

江戸川区

面積 ※49.09km²
世帯数 355,495世帯
人口 690,476人
(うち外国人) 43,389人
予算 3,263億円
職員数 3,647人

※境界の一部が未定のため、国土
地理院発表の面積とは異なる。

歴史・見所・名所

昭和7(1932)年に7町村が合併し、人口10万人で誕生した江戸川区は、令和4(2022)年、区制90周年を迎えました。昭和30年代には急増する人口に都市基盤整備が追いつかず、区民生活に直結する環境面の改善が急務となりました。そこで、区画整理事業をはじめ、下水道整備や鉄道の誘致、公園の造成など様々なまちづくり事業を推進してきました。同時に「ゆたかな心 地にみどり」を合言葉に、区民と行政の二人三脚による「環境をよくする運動」を展開し、今では快適で安心して暮らせるまちへと発展を遂げています。

本区では、区民とともに育んできた環境が見所や名所となっています。全国に先駆けて整備した親水公園をはじめ、荒川右岸に広がる小松川千本桜、区内を東西に流れる江戸時代からの運河・新川に沿った新川千本桜、バラが咲き誇るフラワーガーデン、小岩菖蒲園などの花の名所は、四季折々の情景を創り出し、人々の心に潤いを与えます。また、都内初のラムサール条約登録湿地となった葛西海浜公園では、多くの渡り鳥や水生生物の観察をはじめ、潮干狩り、海水浴も楽しめます。その他、600種を超える海の生き物と出合える葛西臨海水族園や乗馬体験ができるポニーランド、66種類500頭以上が飼育されている自然動物園など、多様な生き物との触れ合いも楽しめます。

このように、東京駅からわずか15分の場所に都市機能と豊かな自然が共生するまちとなっています。

概要

- (1) 江戸川区は23区の最東端に位置し、東に江戸川、西に荒川、南は東京湾と、三方を川と海に囲まれています。公園面積の広さは23区一を誇り、中でも代表的な親水公園は、5公園・総延長10,030mにわたって整備され、水とみどり豊かなまちなみを創出しています。
- (2) 23区でも有数の子どもが多いまちであり、まちなかには子どもたちの声があふれています。令和5(2023)年度からは「えどがわ50の子育てプラン」として、出会いから結婚、出産そして子育てまで、ライフステージに合わせた幅広い支援を行い、望む方が希望を叶えられる社会の実現をめざしています。
- (3) 老人クラブ数は23区で最も多く、後期高齢者医療制度の医療費は23区で最も低い、高齢者が元気なまちです。おまつりをはじめ、様々な地域活動が活発に行われています。
- (4) 金魚の養殖、伝統工芸品、花卉栽培などの地場産業が盛んです。



葛西海浜公園
都内で初めてラムサール条約
湿地に登録



JR小岩駅前再開発
「100年栄えるまちづくり」をめざし、複数の大規模再開発事業が進行中



江戸川区花火大会
1万4千発の花火が夜空を彩る
夏の風物詩

中でも小松菜収穫量、花と野菜の出荷額は23区一であり、令和5(2023)年には、区内でも農業の盛んな鹿骨地区が、東京都の「農の風景育成地区」に指定されました。

- (5) 長野県安曇野市、山形県鶴岡市、新潟県南魚沼市と友好都市盟約を結んでいます。また、オーストラリアのセントラルコースト市、アメリカ合衆国のホノルル市と姉妹都市盟約を結んでいます。

主要課題

(1) いのちを守る災害対策

陸域の7割が満潮位以下である本区は、ひとたび洪水や高潮、集中豪雨による氾濫が起きれば大きな被害が発生します。そのため、国・都と協力した高規格堤防の整備、駅前再開発にあわせて建物同士をデッキでつなぐ高台まちづくりなどのハード面、水害ハザードマップの周知、自主的広域避難者向けの宿泊補助金の創設などのソフト面の両面から対策を行っています。加えて地震への対策として、家屋の倒壊を防ぐ住宅耐震化の促進や、通電火災を防止する感震ブレーカーの配布など、様々な対策を実施しています。このように、安全・安心に暮らせる災害につよいまちづくりを進めています。

(2) 新庁舎の建設、公共施設の再編・整備

現庁舎は建設から60年以上が経過し、現在、船堀駅近くに新庁舎を建設する計画を進めています。新庁舎は区民を守る災害対応の拠点としての機能を強化し、「日本一の防災庁舎」をめざします。また、老朽化により更新時期を迎える公共施設の再編・整備も喫緊の課題です。例えば小・中学校は、子どもたちのためのよりよい学習環境の整備に加え、災害時に避難場所として活用できるよう長期的な児童・生徒数の減少も見据え、今後も計画的に改築・統合を行っています。その他の公共施設も、将来のあるべき姿を見据えて総合的に進めていきます。

将来展望

本区の人口はこれまで増加を続け、令和元(2019)年10月には人口70万人に達しましたが、本区が行った推計によると今後減少局面に転じ、2100年にかけて、人口、歳入、職員数は現在の半分程度になるとされています。そのような中、性別や年齢、国籍、障害の有無などに関わらず、「誰もが安心して自分らしく暮らせるまち」すなわち「ともに生きるまち」の実現に向けて、様々な取組を行っています。

令和3(2021)年7月には、今日生まれた子どもたちが生きる2100年の未来に向けて、共生社会実現のために区の果たすべき役割を定めた、「ともに生きるまちを目指す条例」を制定しました。また令和4(2022)年8月には、多くの区民や事業者の声を聴きながら長期的な構想である「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)」及び中期的な計画である「2030年の江戸川区(SDGsビジョン)」を策定しました。その後、ビジョン実現のためのアクションプランを策定し、現在は再び皆様の声を丁寧に聴きながら、プランの実践に向けて歩みを進めています。

将来世代に負担を先送りすることなく、住みよい江戸川区を引き継ぐために、今から、私たちからできることを全力で取り組んでいます。



新川千本桜

小松川千本桜に並んで本区を代表する桜の名所



小松川境川親水公園

かつての清流を甦えらせた区民のオアシス「親水公園」



パラスポーツ

東京2020パラリンピック全22競技に取り組める環境を整備



角野栄子児童文学館

子ども大人も自由に本と出合うことができる、通称「魔法の文学館」